

# 3 府中市の交通

## (1) 府中市の交通機関

府中市は、古くは国府所在地として、今でも関東地方の交通の要衝である。これは国府設置以来中心地にある大國魂神社を起点に交通網が発達したことに影響されている。

道路網では国道20号（甲州街道）、中央自動車道などの幹線を介して東西の区部と郊外とを結び、府中街道、鎌倉街道を介して南北の神奈川県や埼玉県と結んでいる。

鉄道網では、武蔵野線、南武線、京王線、西武多摩川線が駅を持ち、こちらも東西の区部と郊外を結んでいる。また、かつては中央線国分寺駅から分岐する形で下河原線が存在したが、現在は廃止され、そのあとは遊歩道や公園等に整備されている。

こうした鉄道の駅をターミナルとして市内各地域を細かくつないでいるのがバス路線である。京王線府中駅を中心に中央線武蔵小金井駅、国分寺駅、国立駅などを結ぶ路線など多くの路線が市民の足として活躍している。また2003年（平成15）12月から4路線、2008年（平成20）3月から2路線追加され、計6路線で府中市のコミュニティバスが「ちゅうバス」の愛称で運行されている。

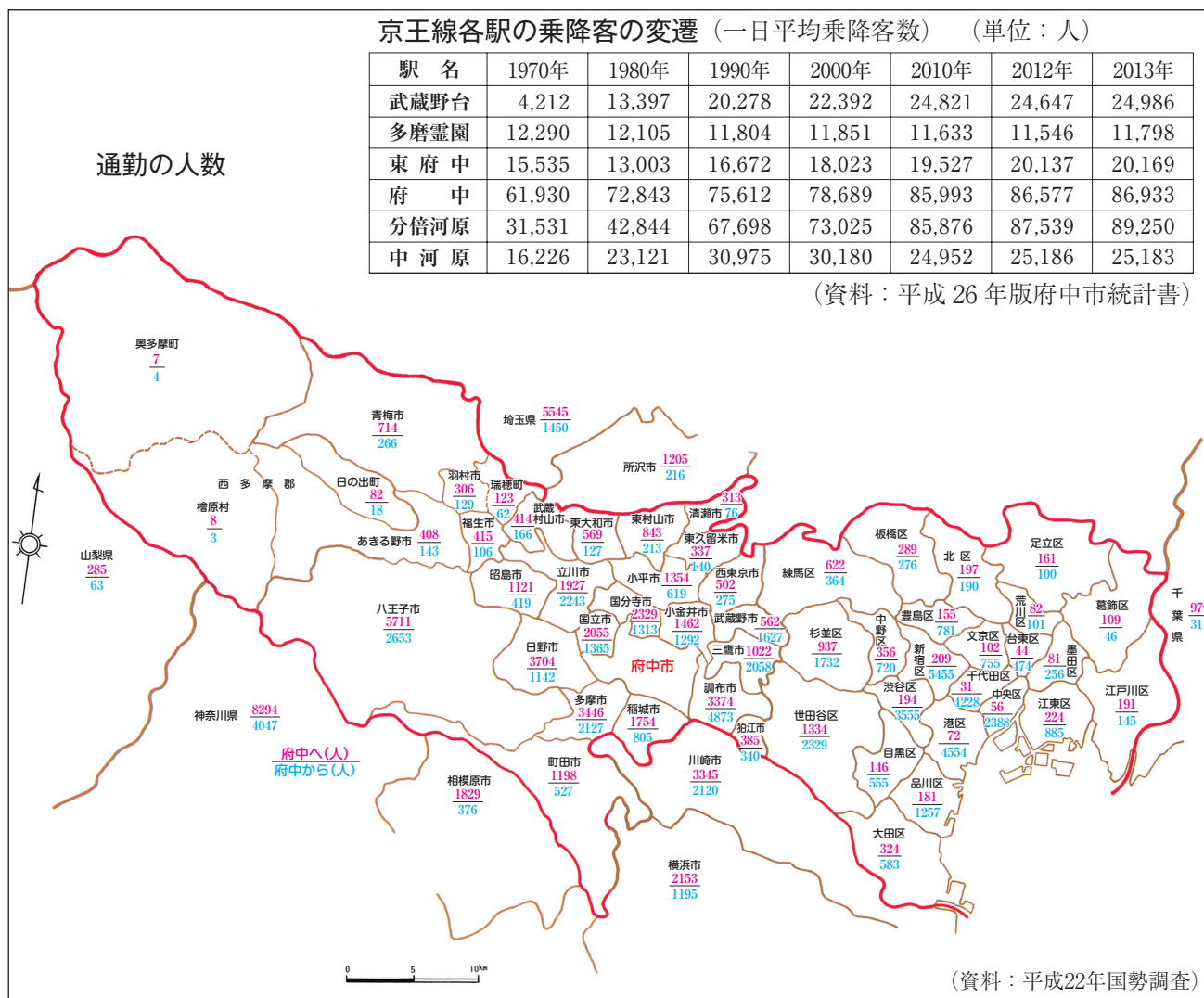


**課題** なぜ「ちゅうバス」が登場してきたのか、その理由を背景となる社会状況を考えながらグループで話し合ってみよう。

## (2) 府中からの通勤圏・府中への通勤圏

甲州街道の宿場町として発達してきた府中市は、甲州街道の整備や中央自動車道の開通など、道路網の整備も進み、また、都心や周辺の都市といくつかの鉄道網で結ばれるようになった。さらに、各交通機関が高速化されるなど、市民の通勤圏や買物圏などの生活圏がますます広がってきている。

一方、府中市に仕事や買物、イベントでやってくる人々も増えており、東京の近郊都市の中での府中市の果たす役割が大きくなってきている。



### 課題

- ① 上の図から次の区市町村を選び着色しよう。  
 ア：府中市から1000人以上の人が通っている区市町村を赤で着色しよう。  
 イ：府中市へ1000人以上の人が通ってくる区市町村を青で着色しよう。
- ② 府中市の発達と交通網との関係性を話し合ってみよう。